

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあかね やすらぎ館	評価実施年月日	平成19年8月20日
評価実施構成員氏名	佐藤 今川 染木 串田 向中野 森野 児玉		
記録者氏名	佐伯	記録年月日	平成19年9月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1.理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域との関係を深めながら、入居者さんの生活が明るく快適なものとなるような理念を作っている。基本理念は「ゆったりとした環境の中で、その人に合わせた生活を尊重する。一人一人の自発性を促し、不安や孤独感を取り除き、普通に生活できるよう介護を行う。」	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をホームの入口、事務室などの職員の目の届くところに掲示し、理念を認識できるようにしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの生活の様子を毎月のお便りでお知らせしている。又、地域推進会議ではホームの生活の様子や理念を地域の方にもお伝えし、ご意見も頂いている。	
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日光浴や散歩などの時にホーム前に植えたお花やご近所の花壇を眺めながらご近所の方に話しかけたり、ご近所の方から話しかけられることも増えてきている。近所に児童会館がある事から館長さんとも大変良い関係になってきており、入居者さんのお誕生会には子供達が来て歌のプレゼントもしてくれる。今後も、敬老会、十五夜さん、体育の日等の行事では楽しい催し物を披露してくれることになっている。個人的に近所の子が遊びに来てくれることもある。児童会館での行事には声を掛けていただき、遊びにも伺わせてもらっており子供達ともとても楽しい交流を持っている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会しており、町内清掃などの活動に参加しながら地域の高齢者との会話や交流をするよう努めている。地域のお祭りなどの行事には入居者さんも一緒に参加し楽しませて頂いている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	管理者、職員は積極的に研修会に参加したり、学習を積み常に自己研鑽している。徐々に地域の方にも還元していこうと思っている。	地域の高齢者対象の介護予防体操教室や健康に関する勉強会の開催を計画していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価でご指導を受けた点は改善に向けてすぐに取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で頂いたご家族や地域の方々のご意見や要望を真摯に受け止め、サービス向上に繋がるように努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村との交流はあまり出来ていない。必要性は痛感しているので、これからの課題にしたい。		定期的に行われている管理者連絡会議には必ず参加し市町村との連携にも力をいれていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会への参加や独学にて必要な知識を習得するようにしている。		現在のところ、対象者はいないが今後必要と思われた時には利用できるように知識を持っていたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修や勉強会で全職員が周知できるよう努めている。その人らしさを尊重する介護を全職員が統一した理念で行えるよう機会ある毎に確認し、虐待防止は徹底している。		カンファレンスや勉強会を利用して、理念の定着を図りたい。全職員がしっかりと周知できているように虐待防止に関しても更なる勉強を徹底したい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には十分な時間をとって説明し、入居者さんやご家族の疑問や不安が解消できるよう配慮しながら行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者さんの不満や苦情や意見などがあれば十分な時間をとってお話を聴き、頂いた意見を反映させ、苦情に関しては相談しながら納得して頂くよう努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>管理者は毎月家族に手紙を送付し、その月の健康状態や日々の生活の様子、特に変わったことなどを細かく記載し報告している。職員の人事異動関係でもきちんと文面で報告している。また、面会時にも詳しくお伝えするようにしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族との信頼関係を築くよう常日頃意識しながら関わらせて頂いているため、不満や苦情や意見などがあれば率直に言ったださる方が多い。頂いた意見を反映させ、苦情に関しては早急に改善策を取るよう努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は職員からの意見や提案を聞く機会に恵まれているので、管理者を通して運営者に伝えている。必要に応じて運営者と職員との話し合いの場も設定している。</p>		<p>今後も管理者の責務として職員の意見の把握に努めたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者さんの状態に合わせて必要な時間帯に職員を確保することは、職員の理解の上管理者が調整して入居者さんに負担がかからないように努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>管理者は職員の心の状態を日頃の様子から把握できるように努め、管理者から運営者に報告、相談を行っている。早目の対応で離職者を最小限に抑えるようにしている。新規職員には当面なじみの職員がついて入居者さんとの関係作りに配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スキルアップのために、研修などには積極的に参加できる環境が出来ている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修などに参加することで自然に同業者との交流が出来、情報交換する中でお互いの良い面を取り入れている。その事でサービスの質の向上が期待できる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員に対しての慰労の意味での会食の場を設けている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	必要な各種研修費用は会社負担で受けさせてもらっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居者さんの話はゆっくりと時間をかけて傾聴し、不安解消に繋がるように努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の相談も電話などで時間をかけて聴き、一緒に問題解決のために話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご家族や入居者さんに必要なことを職員全員で考えるようにし、出来る限り良い結果になるように努めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>突然新しいことをはじめのではなく、その人のペースに合わせ、ご家族の意見も取り入れながら取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>時には入居者さんから教わる機会を設けお互いに助け合い、支えあう関係を築いている。雑談したり楽しい時間を共に過ごす中で信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の気持ちに寄り添い、共に喜び、困ったことは相談しながら考える姿勢でご家族と職員との信頼関係の継続に努めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご家族や本人と話す機会を多く持つことで、今までの家族関係などを十分把握しよりよい関係が保てるよう配慮している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者さんの好きな場所などにいけるように支援し、入居前ご近所だった方など馴染みの方が来訪されたときには、再度来訪しやすい環境づくりや人間関係も出来るだけ維持できるように支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さん同士が良い関係を築けるよう、相性や性格、培われてきた習慣等を考慮して食席を考えたり、家事のお手伝いを一緒に出来るような場を設けたりしている。孤立しているような入居者さんには職員が中に入り関係作りの支援をしている。他のフロアーの入居者さんも時々遊びに来て、関係作りが出来ている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院のため退居となった方でも時々お見舞いに伺ったり関係継続に努めている		退居後も関係が継続できるよう、今後も取組んでいきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者さんとの信頼関係作りに努め、入居者さんが自分の希望や意向などを話しやすい雰囲気ができるよう心がけている。認知症が重度の方等、対話が困難な場合にはその方の表情や行動など非言語を通して把握するように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方についてご家族から情報を頂いたり、入居者さんとの会話の中から把握するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	さりげない見守りの中から、有する力を把握してその力に合わせた支援で出来ることの継続に努めている。また、日によって変動のある心身状況を把握できる洞察力を持てるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となった話し合いの場で、全職員がお互いの意見や情報、アイデアを出し合ったものに本人や家族からの希望や意見を取り入れて作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	原則、見直しは3ヶ月毎にしているが、新規の入居者さんや状態に変化が生じた入居者さんの場合は、その都度全職員で現状に即した計画を新たに作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の入居者さんの様子、ケアの実践、結果など個別に記入し職員が情報を共有できるようにはなっているが見落としなどで情報把握不足の職員も見られる。記録をケアの実践や介護計画の見直しに役立てている。		職員一人一人がしっかり情報把握できているように記録の方法を含めて検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人やご家族の状況に応じ、管理者が通院介助を担うなど柔軟に対応している。又、24時間医療機関との連絡が取れるので安心して生活が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域消防に依頼して救命救急講習、避難訓練をして頂いたり、運営推進会議の中での勉強会をお願いしたりご協力を頂いている。		外出レクなどの行事時、ボランティアさんの協力も検討していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護保険ではグループホーム入居と他介護サービスの併用は出来ないので、近所の図書館へ行ったり児童会館の行事に参加させていただいている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加していただく中で関係が持て、情報交換や相談が出来るようになってきている。ケアマネジメントに関しては今のところ必要性を感じておらず、協働していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>月2回かかりつけ医の往診がある。気軽に相談できる看護師から健康管理や医療に関する助言を頂いている。</p>		
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医に不定愁訴の訴えや症状をお伝えし、必要に応じて専門機関を受診している。</p>		
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所としては看護師は確保されていないが気軽に相談できる看護師がいるため、日常の健康管理や医療活用に関する助言をもらっている。</p>		
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院になった場合でも入居者さんのダメージが最小限に抑えられるように、入院中も病院との連携を密にして早期退院に努めている。又、職員は頻繁に見舞いをして、状態をその都度かかりつけ医やご家族と情報交換をしている。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>機会ある毎に本人やご家族からの意向を伺っている。</p>		
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>実施してはいるが今後は必要性も感じられる。</p>		<p>終末期ケアについて検討していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	他事業所に移られる場合や長期の入院になった場合、詳しい情報を提供することで、環境変化によるリロケーションダメージの軽減を配慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	介護の基本を振り返る勉強会を取り入れ、その人らしさと尊厳を大切に、入居者さん一人一人にあった関わり方が出来るように努めている。		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	本人の性格や理解力に合わせて、ゆっくりと落ち着いた話し方で、本人が自己決定しながら暮らせるように支援している。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	基本的な業務の流れは決めているが、業務を優先するのではなく入居者さん優先で、やりたいことや要望に合わせて、一緒に楽しい時間を多く取れるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	毎日の着替えは、利用者の意思で決めてもらっている。自己決定、更衣が難しい方には一緒に服を選ぶよう支援している。理美容は毎月訪問美容が来られるので希望があれば毎月できるようになっている。		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	献立は基本は事業者が考えたものを使用しているが、週末等は利用者の食べたいメニューを取り入れている。調理方法や味付け等、極力要望に答えるようにしている。簡単な調理、盛り付け、片付けは利用者のやる気に合わせてお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	喫煙する入居者さんはいないが、お酒の好きな入居者さんには一緒にお酒を買いに行ったり本人の希望時にお酒を楽しめる時間を作っている。食べ物についても近くのスーパー等で嗜好品が買えるように支援している。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄チェックで排泄パターンを把握し、時間を見ての声かけ・誘導によって排泄の失敗が軽減するよう支援している。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	入浴は入居者さんの体調や希望に合わせて入れるようにしている。入浴を嫌がる入居者さんには無理に勤めることなく気持ちが向くような声かけ・対応を工夫して行っているが、拒否が続く時には清拭・ドライシャンプーにて保清に配慮している。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	日中は出来るだけ散歩などの活動を促し、楽しい時間を過ごせるよう工夫している。夜間寝れない方には落ち着くまで一緒にお話したり、添い寝をしたりして安心できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	入居者さん個人個人の得意な事や好きな仕事、出来ることを把握して、無理のないよう配慮しながらお手伝いしていただき、その都度感謝の気持ちを伝えている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	自分で精算が出来ない方でも買い物に行くときにはお財布を持って一緒に買い物をし、社会性を失わないように配慮している。ほとんどの方が自分でお小遣いを持っており、自由に使っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一日中家の中だけにいるのではなく、利用者の体調・天気・気分に合わせてできるだけ散歩や買い物、行きたい所に行けるようお誘いしている。希望に合わせて外食にも一緒にやっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者さん個人の行きたい所への外出(温泉など)は、予め計画を立て職員が同行している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホールに電話を設置している。又お部屋で気兼ねなくゆっくり話しが出来るようにコードレス電話も用意しており、いつでも使えるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を決めず好きなときに会えて一緒に過ごせるようにしている。又、いつでも気軽に来訪しやすい雰囲気作りを心がけている。職員はいつも親身にお話に耳を傾けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	介護指定基準や身体拘束についての研修を受けたり、全職員が身体拘束についての共通認識を持てるようカンファレンスで確認している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていることはなく、入居者さんが外に行きたいときにはいつでも出られるようにしている。職員の手が足りないときは少し時間をずらして待っていただくなどして、安全面に配慮して支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は利用者を常に見守りながら、料理や記録等、日常業務を行い、さりげなく全員を把握するようにしている。夜間は数時間毎に様子を見て回っている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>入居者さんの状況に合わせての工夫により危険防止に配慮している。工夫によっては危険の回避が困難と思われる場合には入居者さんの身の安全を考慮して保管・管理させて頂いている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を開くなど、全職員の事故防止に関する知識習得に向けて努力している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防の救命救急講習を受け、心配蘇生法など緊急時の対応を全職員が出来るように努めている。定期的に勉強会で確認し直すようにしている。</p>		<p>確認するだけでなく、定期的に実際に救急救命講習会の開催を継続し、緊急には全職員がしっかり応急手当が実施できるようにしていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防による避難訓練は受けているが定期的な訓練の必要性を感じる。</p>		<p>定期的に避難訓練を継続し、万一の時にはしっかりと人命を守れることを目標に取り組んでいきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>考えられるリスクは家族に説明し、合わせて予防策も話し合う機会を持っている。抑圧感を感じることなく安心して生活が送れるよう考慮しご家族にも理解していただけるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタル測定と観察で体調変化に迅速に気づくように努めている。体調変化に気づいた職員は管理者に報告し、対処内容を記録する。状態により、かかりつけ医に繋げている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤のリストを日誌に挟めてあり、入居者さんがどんな薬を内服しているかなど把握できるようにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食物繊維の多い物や適量の香辛料を食材に使用したり体操も取り入れてる。ヤクルトや牛乳、冷たい飲み物など個々に合わせて摂って頂いたり水分補給にも充分考慮し、自然排便できるように取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	介助の必要な方には口腔ケアを毎食後取り組むようにしている。自立されている方に対しては声かけを行っている。義歯の手入れが出来ているか夜勤帯に確認し、汚れている方に対してはポリドントにつけるなど保清に配慮している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分は毎日チェックし摂取量の変化や脱水の危険性を見過ごすことのないよう注意している。また、個人の食べやすい食事形態や習慣にも配慮しながら支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、予防対策に努めている。市からの通達などは職員にも伝え、意識するようその都度対応の確認を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎晩、調理用具(まな板、布巾など)の消毒を行っている。食材の在庫チェックはまめに行い、食材も新鮮なものを仕入れて食中毒の予防に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関は日中施錠をせず、自由にしていただけるようにしている。玄関周りには花を飾り和やかでやさしい雰囲気を醸し出せるように気配りしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>トイレ内は落ち着いて使用できるように動物の写真や造花などを飾ったりして、明るい雰囲気になるように工夫している。居間には季節を感じられる花を飾るようにしている。壁には入居者さんの作品や写真、絵などを貼って暖かい雰囲気が出るように工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食席以外にソファを置いて、気の合う入居者さん同士で座って談笑できるような居場所を作っている。外にもベンチを置いて好きなときに外で過ごせるようにしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際には個人の馴染みの家具などを持ってきて頂けるように家族と相談している。入居してから部屋の中を居心地が良くなるように家族の写真を貼ったりして、やさしい雰囲気になるように取り組んでいる。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>24時間換気システムを設置している。温湿度計を設置して適切な室内環境を保てるようにしている。暖房を使用する時期にはホールだけでなく全室に加湿器を設置して空気の乾燥防止に配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>段差がないので、段差による転倒を防げ安全に生活できている。手すりの設置もあるため入居者さんも自由に安心して歩かれている。目の不自由な方がおり、怪我防止のため柱にクッションシールを貼って対応している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>部屋の入口やトイレの場所が分かるように目印などをつけて工夫している。みまもり、さりげない声かけで失敗や混乱を防ぎ、個々に合わせた方法で職員が対応している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>野菜畑、花壇があり入居者さんも畑仕事や収穫を楽しんでいる。外にはベンチを置き、日光浴や夕涼みで心の安定に役立っている。</p>	

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

楽しみごとの予定があると「あと 日だね。」「楽しみだね。」と入居者さんは毎日が明るく生活できるように思います。現在はレクボランティアさんの慰問を少なくとも月1度はお願ひしており、今後も継続予定です。又、近くに児童会館があり、時々子供達が訪ねてきてくれて、一緒に塗り絵を楽しんだり、お話ししたりしてます。レクボランティアさん慰問には、児童会館の館長さんを通して子供達にも声かけし、館長さんも児童会館の行事には御誘ひ下さいます。今後は入居者さんのお誕生会には子供達が来て歌を唄ってくれる事や、敬老会、十五夜、体育の日、クリスマスなど行事毎に来訪して下さり、お楽しみ会を開いてくれる予定です。児童会館祭りのお誘ひも頂いており、すでに来年の予定まで頂いております。行事予定表が次々に埋まってくるとお顔をほころばして喜んでくださる入居者さんは多いです。これこそ地域密着の良さだと大変嬉しく思っています。これからの課題として、地域で暮らしておられる高齢の方との繋がりをもっと持ちたいと考えています。介護予防運動教室や健康教室、認知症サポーター養成講座など開催し面識を持ち、徐々に関わりを深めていけたらと考えています。行事に関しましては、ご家族様からのご要望もあつた事なのですが外出レクも増やしていけたらと思います。参加可能なご家族様も一緒に外出することは気分転換にもなりご家族様と職員との関係をより深めてくれると思うのです。入居者さんの生活を豊かに出来る取り組みを机上の空論で終わってしまわぬよう、今後一つ一つ実践に繋げていこうと考えています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあかね くつろぎ館	評価実施年月日	平成19年9月1日
評価実施構成員氏名	澤谷 君島 小清水 大島 佐藤 中地 澤田		
記録者氏名	柳澤	記録年月日	平成19年9月8日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	オープンして1年経過したが、経営者・管理者がかわり確立しきれていないと思われる。家族・支援者・地域が一体となってケアができるよう理念を独自で作し、玄関付近・スタッフルームに掲げ把握していくようにしている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員がいつでも見えるように理念を掲示している。日々の申し送り、カンファレンス等にてよりよいケアの実施に向け行っているが、理念を意識しての取り組みはしていない。		カンファレンス等で理念の確認を行い、良いケアに繋げるよう活かしていく。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催、ホーム便り、家族には面会時に近況報告を行い、ホームの様子を理解して頂けるように取り組んでいる。		地域の中で暮らしていく上で、地域のサポートが不可欠な為、ネットワーク等を作り協働できる体制作りをしたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所への買物、日々の散歩を通して挨拶を交わしたり、ホーム行事として行っている余興への案内を玄関先に掲示して呼びかけている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会・自治会に参加している。地域の方がボランティアとして余興の披露を行ってくれたり、町内の行事に参加し交流を図っている。また、児童会館の子供達とも交流が持っている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通し、認知症について等の勉強会を開催し、高齢者の暮らしに役立つように話し合いの場を持っているが、数回しか行っていない。		定期的に勉強会や、老人世帯が多くなることを予測し、介護教室などホームで実施していくことを検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価を全職員一人ひとりが行い、現状の理解・再確認を行っている。	運営者、管理者は外部評価の意義を理解しているが、職員は理解しきれない様子。職員に対して外部評価の意義を理解してもらおうと共に評価の結果を活かし今後役に立てるように改善計画を立てる。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議を行い、地域住民の方から良い意見を頂きサービスの向上に活かしている。	定期的開催し、今後も意見等を参考にし職員間で話し合い、向上に努めていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	運営推進会議の際の議事録などは送付しているが、それ以外の連携はない。定期的に行われている管理者会議には参加している。	連携の取れる関係作りを行い、協働できる体制をとっていかたいと思う。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	職員全員が理解し、必要時に支援できる体制が万全とは言えない。	勉強会の開催、研修の参加を行い全職員が理解し、必要時支援ができる体制をとれるようにしたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持っていない。日常では職員全員が虐待防止に努めている。	勉強会や研修参加等で学ぶ機会を持ちたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	事務長よりケアに関する事項、退居を含めた対応可能な範囲についての説明を行い、理解・納得をして頂いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	スタッフに言いやすいような雰囲気作りを心掛けている。外部者に表せる機会や運営には反映していない。		入居者の不安等には全スタッフが知り、話し合い、日々のケアに活かしていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回の家族向けに各入居者の暮らしぶり、状況報告をお知らせしている。担当スタッフのコメントも記入し送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に苦情ボックスを設置しているが、あまり活用されていない。家族には電話連絡・訪問時に意見・苦情等をお聞きし、知らせて頂いている。外部者へ表す機会は設けていない。		苦情ボックスの周知を図り活用しやすいように工夫する。外部者へ表す機会をどのように設けるか検討する。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務時・カンファレンス等で意見を聞く機会は設けているが、全てを把握する事は難しく、しきれていない可能性がある。		各スタッフがどのような考えを持っているのか個別に聞く機会を設ける検討をしている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	夜間、管理者は夜勤に入らず、入居者の状況変化に柔軟に対応できる体制を取っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ケアスタッフの異動は少ないが、短期間で管理者・計画作成者の離職が見られてしまっている。入居者へのダメージを防ぐように心掛けている。		離職者を軽減し、顔なじみのスタッフによるケアを心掛けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修に参加する機会は設けているが、全スタッフが受けれている状態にはまだ至っていない。</p>	<p>全スタッフがスキルアップに繋がるよう多くの研修に参加できる機会を設けていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他事業所との意見交換などの場は持っていない。</p>	<p>合同で勉強会等の機会を持ち、他事業所との違い等の把握・自施設の改善部分の検討が出来る場を持てれば良いと思う</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は現場に訪れ、職員の悩み等を聞く機会を作っている。職員同士の人間関係の把握に努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>現場状況の把握をし、各スタッフが向上心を持って働けるように努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用前には必ず本人に会い、不安・求めているものを理解できるように努め、受け入れられるように心掛けている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族側が求めているものを把握し、どのような対応ができるかスタッフ間で話し合いをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の思い・家族の思い等状況の確認を行い、必要としている支援・どのようなサービスが必要か検討し対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族・本人が直接ホームを見学して頂き雰囲気等確認して納得した上で利用して頂いている。利用後はどのような対応が望ましいか状況の把握に努め、家族からも適時情報提供していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お互い協働し、共に支え合う関係作りを心掛け、各個人を尊重し可能な限り自立した生活を送って頂くようにしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らし・状況の報告の共有に努め、協力関係が築けるように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族・本人の思いを確認しながら、外出・外泊の機会を進めたり、行事の参加に誘い、良い関係が築けるよう努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一人ひとりの生活習慣を尊重し、昔からの友人等の関係が途切れないよう、電話連絡や交流が持てるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聞いたり、孤立しないように入居者同士が関わられるようスタッフが調整役となり支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了後の継続的な関わりは持っていない。		他事業所へ移られた後も、入居者と共に遊びに行ったり出来る機会を持てるようにしたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報提供、本人からの言葉・表情等から把握に努めている。		生活を支える為の十分なアセスメントを日々心掛けていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時・家族訪問時・本人からの情報収集に努め、把握できるようにしている。		情報の少ない方もおり、少しずつ収集・取り入れ把握に努めていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活状況・リズムを理解し、本人の出来る事等にも着目しその人個人の全体像を理解するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族からの要望を聴きカンファレンス等でスタッフ間で話し合い介護計画を計画作成者が作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直し・評価をする共に、状態変化・状況に応じてスタッフ間で情報交換・検討を行っているが、現状に即した新たな計画の作成まで至っていない。		アセスメント・プランの立案等を各スタッフに行ってもらい、実践・評価・見直し、状態変化時にその都度プランの見直し・作成ができるようにしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルに日々の記録を記入。温度板の使用にて状況の共有を行っているが、プランの見直しに活かされる記録となっていない。		記録用紙の検討、9月より変更しプランの実施状況が把握できるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急時、状況によって通院・送迎等の必要な支援は柔軟に対応できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア・児童会館の子供達の余興披露、周辺施設の利用、消防との意見交換等の機会を設けている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人希望に応じて訪問美容サービスを利用してもらっている。		地域の図書館での催し(読み聞かせ)等に参加していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してくれている。		必要に応じて権利擁護等の説明を行って頂き、今後も協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。訪問診療は月2回往診に来ており、緊急時の対応も可能な体制になっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	在宅の往診も行っている認知症に詳しい医師にホームの往診も依頼し診て頂いている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診・訪問歯科の利用の中で、気軽に看護師と相談できる体制がとれている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には入居者と共に見舞いに行き、病院・家族とも情報交換をして状況確認している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期の対応は行っていない。対応できる範囲での支援を行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の対応は行っていないが、出来る事の支援を行いたい。		状況変化に備えた準備や医師との連携を強化していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他事業所へ移る際は情報交換を行い、今まで行っていた事等が継続できるよう、ダメージを最小限にできるように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人の尊重を図り、対応・言葉掛けを行うように気をつけている。		さりげない言葉掛けや対応が全スタッフが常時できるようにしていきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	スタッフの誘導もあるが、入居者自身が自己決定できるような声掛け・場面を作っている。		スタッフの都合に合わせた言葉掛けをせず、一人ひとりの暮らしの状況に合わせた支援を常に心掛けていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	買物・散歩等、一人ひとりの状況・状態に配慮し対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問美容月1回あり。希望者は毛染め・パーマ等行える。また本人の望む店の利用ができるように支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者と共に調理・盛付・片付けを行い、楽しく食事ができるようスタッフも同席し雰囲気作りも大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコ・お酒については職員が預かり、本人の希望にそって他者に迷惑がかからないように提供している。おやつ等も一緒に好みのものを買いに行ったりしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を利用し声掛け・誘導・本人の訴えにて、スムーズにトイレで排泄できるように支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者のその日の希望を確認し入浴して頂いている。拒否のある方には快く入浴できるように働きかけ・タイミングを計り行っている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の臥床時間を少なく、活動時間を増やし、生活リズムを整えるように心掛けている。また入居者の状況に合わせて安眠できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮出来るように状況に応じながら、食事の支度・掃除等行って頂いている。歌・花札等ゲーム等でも楽しんで頂けるように工夫・支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方は家族にも協力して頂き、少ない額のお金を管理されている。ホーム側で管理している場合も希望に応じ買物へ行き、個々で支払いが出来るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の意向にそい、積極的に散歩・買物等、戸外へ出かけられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との外出・外泊は実施あり。ホームでは外食・町内の特別事業(祭り等)には可能な限り参加支援しているが、個別での外出機会は設けていない。		車を利用し、遠方への外出行事を増やせるように計画・支援していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者の希望に応じて、日常的に電話を掛けられるようにしている。事務所でかけられるように場所の配慮をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者用スペースはないが、各入居者の居室等で他入居者に気兼ねなく過ごして頂いている。気軽に訪問できるような雰囲気作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンス・申し送り等で拘束のないケアについて話し合い・確認しているが、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての理解は十分ではないと思う。		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」に関して勉強会を開きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外出したいとの要望・様子があれば、声掛け・一緒に外出する等行い施錠の常態化は行っていないが、状況によりやむを得ず入居者の方には納得して頂き施錠することもある。		施錠の常態化を防ぐと共に、夜間以外、常に開放できるように更なる工夫を検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	同じ空間で記録等を記入を行い、一人ひとりの様子を配慮している。夜間は数時間毎に様子確認を行い、すぐに対応できるように職員の居場所も工夫している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤類等は目や手の届かない場所で保管している。入居者には全てを取り除くことはなく状態等により対応をしている。夜間、洗剤保管場所は施錠し管理している。利用者が使う際は職員が注意をはらうようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故に関してのマニュアルはあるが、特に訓練はしていない。ヒヤリハット等の報告書をすぐに作成し事故が起きないように具体的に検討している。		迅速に動けるように訓練を行っていききたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命講習の定期的開催(年1回)を行い対処法を身につけるようにしている。緊急時対応マニュアルの完備をしているが訓練は行われていない。		スタッフ全員が慌てず緊急時の対応ができるよう訓練等を行い、周知しているようにしたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に1回程度、避難訓練は行っているが、地域の人々との連携はとれていない。		地域の方にも避難訓練に参加して頂いたり、運営推進会議等で協力を呼びかけていききたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時にはもちろん、状況に応じ電話連絡・訪問時等に日々の様子等と共に伝えていく。		家族と話し合う機会を多く持って情報の共有をおこなっていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段の状況を把握しその都度、職員間で報告・連絡・相談を行い対応に結びつけている。</p>	<p>職員間の連携を密に行い、情報交換の漏れがないようにしていきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個別に処方箋を管理し、各入居者の服薬内容がわかるようにしているが、職員によって理解度にばらつきがある。</p>	<p>理解・把握ができるよう努めていく。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>食材の工夫・乳製品の積極的摂取を促したり、散歩等で体を動かす機会を設け、自然排便できるようにしている。</p>	<p>排便・便秘について再確認も含め勉強会を開催していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者の能力に応じて声掛け・介助を行っている。自力でおこなっている方の口腔内の把握は出来ていない。</p>	<p>全入居者の口腔内の把握をできる様に心掛けていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分量を把握するため温度板やチェック表を活用し情報交換している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>日ごろから台所用品の消毒・洗面所等でのペーパータオルの使用・うがい、手洗いの遂行・インフルエンザ予防接種を受けている。また感染症に関するマニュアルがある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具・布巾等は毎晩消毒し清潔を心掛けている。食材の残りは日付けの記入を行い、状態を確認し冷凍保存や処分をしている。		定期的に冷蔵庫清掃・食材の鮮度確認を行い清潔を保つ。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関先にベンチ・プランターを置き季節感を表したり、明るい雰囲気作りをしている。余興行事がある際は玄関前に貼り出しお知らせしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	共用空間には利用者の写真などを飾ったり、テーブルに季節の花を置き季節感を取り入れるように工夫している。またテレビの音量の調整、音楽鑑賞を行っている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	お互いの居室や廊下に設置しているベンチや居間のソファーを利用し思い思いの場所で過ごされている。また食堂テーブルが気の合う入居者同士で過ごす場所となっている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居者の好みの物や馴染みの物を持ち込んで頂き使用して頂いている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	温度・湿度計の設置。換気・湿度調整・温度管理に気をつけている。トイレには換気扇と消臭剤の使用で臭い等の解消をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者の状態に合わせて大きさ別のトイレを使用したり、廊下の手すり・浴槽等転倒がないよう安全と自立の配慮をしている。</p>	<p>出来る限り工夫し配慮していくよう努める。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室がわかるよう表札をつけたり、能力に合わせスタッフの手伝いをして頂いたり、自立して出来る事の支援・工夫をしている。</p>	<p>より多く「できること」を把握し、自立に向けた支援をしていきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭に花を植えたり、畑に野菜を植え、入居者が収穫できるような環境作りをしている。玄関先のベンチで外気浴を楽しんだりできるスペースも確保されている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 一人ひとりの希望や能力によって自立した生活を支援している。